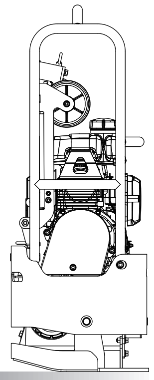
Mikasa

ラウンドプレート

MVC-PR60



取扱説明書

ja

三笠製品をお買い上げいただきありがとうございます。
ご使用前に本書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に保管してご利用ください。

401-04901

http://www.mikasas.com

目　次

1. はじめに -- 1
2. 機能概要 -- 1
3. 警告サイン -- 2
4. 安全のための注意事項 -- 2
　　4.1　一般的な注意事項　2
　　4.2　給油中の注意事項　2
　　4.3　使用場所、換気に関する注意事項　3
　　4.4　作業前の注意事項　3
　　4.5　作業中の注意事項　3
　　4.6　積み下ろし作業に関する注意事項　3
　　4.7　運搬に関する注意事項　4
　　4.8　保管に関する注意事項　4
　　4.9　整備に関する注意事項　4
　　4.10　ラベルリスト・取付位置　5
　　4.11　絵文字（シンボルマーク）ラベルの説明　5
5. 仕様 -- 6
　　5.1　本体　6
　　5.2　エンジン　6
6. 外観図 -- 7
　　6.1　外観寸法図　7
　　6.2　各部の名称　7
7. 運転前点検 -- 8
　　7.1　点検　8
　　7.2　エンジンオイル　8
　　7.3　起振体オイル　8
　　7.4　Vベルト　8
　　7.5　回動式移動車　9
　　7.6　燃料　9
8. 運転 -- 10
　　8.1　START（始動）　10
　　8.2　運転　11
　　8.3　STOP（停止）　11
9. 運搬 -- 11
10. 手入れ --- 11
11. 保管 --- 11
12. 定期点検 --- 12
　　12.1　各部点検スケジュール表　12
　　12.2　点検作業内容　12
13. トラブルシューティング --- 13
　　13.1　エンジン　13
　　13.2　本体　13

1. はじめに

- この取扱説明書は、ラウンドプレートコンパクターの正しい取扱方法、簡単な点検及び手入れについて記載してあります。本機の優れた性能を生かし、お仕事の能率を上げ効果的な作業を進めるために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

- お読みになった後も必ずお手元に保管し、分からない事があった時には取り出してお読みください。

- エンジンの取扱いに関しては、別冊のエンジン取扱説明書を参照してください。

- 補修部品、パーツリスト、サービスマニュアル及び修理に関しては、販売店・当社各営業所もしくは三笠部品サービスセンターにお問い合わせください。なお、パーツリストは当社ホームページのWebパーツリストで公開しております。是非ご利用ください。

  Webパーツリスト: https://www.mikasas.info/MIKASA/JA/

この取扱説明書に記載されているイラストは、 設計変更等により一部実機と異なる場合があります。

2. 機能概要

用　途

本機はタンピングランマーの長所とプレートコンパクターの長所を兼ね備えた円筒形のラウンドプレートコンパクターです。転圧盤を振動させることにより、路盤表層を締固めする機械です。特に前後左右で転圧盤から本体のはみ出しのない円筒形であることから、操作性に優れ、マンホール等の周囲や溝等のスペースの限られた作業現場での転圧作業に適します。

誤用途・ご使用の警告

本機は土砂、土、砂、及びアスファルトの転圧作業に使用します。それ以外の作業に使用してはいけません。水分の多い路盤、特に粘土質の現場では、本機が進行せず作業に適しません。また、大きな石が含まれた土質の場合、転圧力が不足し敷き均しが出来ません。
本機は路盤表層を平坦にする機械であり、締め固めを重視する現場には適しません。路盤下層まで締め固めが必要な場合は、ランマー、バイブロコンパクター、振動ローラー等締め固め効果が大きい作業機を使用してください。

構　造

本機上部は、エンジンベース、エンジン、ガードハンドル、回動式移動車で構成されている。
本機下部は、転圧盤と起振体で構成されている。起振体には一軸の偏芯軸が内臓されている。
本機上部と下部は、防振ゴムにより固定されている。
エンジンの出力軸と起振体の偏芯軸の両軸は、Vベルトで繋ぎ、エンジンの動力を伝達する。

動力伝達

原動機は4サイクル単気筒空冷ガソリンエンジンです。エンジン出力軸にはVプーリー付き遠心クラッチが取付けられ、起振体の偏芯軸にはVプーリーが取付けられ、両軸をVベルトでつなぐ。エンジンの回転数を上げることで遠心クラッチは繋がり、プーリー比により転圧に適した回転数に変換され、起振体の偏芯軸に伝達される。偏芯軸が回転することにより、起振体は振動を発生する。起振体で発生した振動は転圧盤に伝わり、本機を前進させ、振動と本機の自重により路盤の締固めと敷き均し作業を行います。

3. 警告サイン

本取扱説明書および機械に貼付けてあるラベルの ⚠ マークは警告サインです。安全上、必ず厳守してください。

⚠	人体に対する危険がある場合
⚠ 危険	指示を守らないと、死亡または重大な傷害事故が生じる危険が極めて高い場合
⚠ 警告	指示を守らないと、死亡または重大な傷害事故が生じる危険があり得る場合
⚠ 注意	指示を守らないと、怪我や傷害事故が生じる可能性がある場合
注意	指示を守らないと、物的な損害が発生する可能性がある場合

4. 安全のための注意事項

4.1 一般的な注意事項

⚠ 注意

- こんな時は作業をしない。
  - 過労や病気などで体調が悪いとき。
  - 医薬品や薬物を服用したとき。
  - 飲酒をしたとき。

⚠ 警告

- 取扱説明書を良くお読み頂き、正しい取扱いで安全に作業を行ってください。
- エンジンの取扱いは別紙エンジン取扱説明書を参照してください。
- 機械の構造を充分理解してください。
- 作業を安全に行うために、防護具(ヘルメット、ゴーグル、安全靴、耳栓等)を着用し、適切な作業服で作業してください。
- 常に機械を点検し、正常であることを確認してから運転してください。
- 機体の貼付銘板(操作方法・警告銘板等)は安全を守るために非常に重要です。機体を清掃し、常に読みやすい状態を保ってください。読み取りにくくなった場合は、新しい銘板に交換してください。
- 幼児等が触れると大変危険です。保管方法、保管場所には充分注意してください。
- 整備する場合は必ずエンジンを停止させてから行ってください。
- 三笠純正部品を使用しない場合や、改造及び修正を加える事で発生した如何なる事故・故障に関して、当社は一切責任を負いません。

4.2 給油中の注意事項

⚠ 危険

- 燃料を給油する時
  - 必ず換気の良い場所で行ってください。
  - 必ずエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから給油してください。
  - 周囲に可燃物の無い平坦な場所を選び、こぼさないように注意してください。こぼれた場合、燃料給油キャップ閉め、こぼれた箇所を良く拭き取ってください。
  - 給油中は絶対に火気を近付けないでください。特にタバコを吸いながらの給油は厳禁です。
- 燃料は口元一杯まで入れるとこぼれる可能性があり危険です。給油レベルはエンジン取扱説明書に規定された量を守ってください。
- 給油後は、燃料給油キャップをしっかり締め込んでください。

4.3 使用場所、換気に関する注意事項

⚠ 危険

- 屋内、トンネル内等の換気の悪い場所では使用しないでください。エンジンの排気ガスには、有害な一酸化炭素等が含まれており、大変危険です。
- 火気の近くでは使用しないでください。

4.4 作業前の注意事項

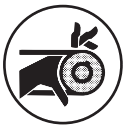
⚠ 注意

- 運転前点検を必ず行ってください。
- 各部分の締付具合を点検してください。振動でネジが緩んでいると思わぬ大きな故障の原因となります。ネジはしっかりと締め付けてください。

4.5 作業中の注意事項

⚠ 注意

- 長時間の連続運転はしないでください。振動障害になるおそれがあります。十分な休憩を取り、間隔をあけて使用してください。
- 本機を始動したり作業するときは、周囲の人や障害物に対して安全であることを確認してください。
- 常に足場に注意し、バランスを保てる無理の無い安定した姿勢で作業してください。
- 回転部（ベルトカバー内等）に手や服などが巻き込まれないように十分注意してください。
- 運転中に本機の調子が悪くなったり、異常に気付いた場合は、直ちに作業を中止してください。
- エンジン本体、マフラー及びマフラーカバー等高温になる箇所は、運転直後の熱い時は触れないように注意してください。
- 本機から離れる場合は、必ずエンジンを停止させて、本機を固定してください。
- 傾斜地での使用には十分ご注意ください。万一、動き出すと重大な事故を引き起こします。また、一時的に停止する場合でも、傾斜地に放置しないで平坦な場所を選び、本機を固定してください。



4.6 積み下ろし作業に関する注意事項

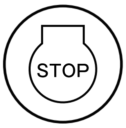
クレーンによる積み下ろし作業は資格が必要です。クレーンの運転・玉掛け作業の資格のある人が行ってください。

⚠ 危険

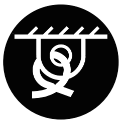
- 吊り上げ作業に対し、本機部品(特にフック・防振ゴム)の損傷やネジの緩みや脱落が無く安全である事を確認してください。
- 吊り上げ時はエンジンを停止させ、燃料コックを閉じてください。
- 吊り上げ機械操作時に事故の無いよう十分注意して下さい。また、吊り上げ機械に故障が無いか確認してください。
- 強度が十分で、損傷の無いワイヤーロープ等を使用してください。
- 吊り上げ作業は一点吊りフックのみ使用し、その他の場所(ハンドル等)での吊り上げ作
- 業はしないでください。
- 本機を吊り上げた際、下には絶対に人や動物を入れないでください。
- 安全の為、必要以上の高さには吊り上げないでください。
- 油圧ショベルのクレーン仕様で作業を行う場合、急激な吊り上げ・吊り下げは絶対に行わないでください。
- ハンドルや本機を手で持って持ち上げる場合は、ハンドルと本機の間に指や手を挟まないように注意してください。

4.7 運搬に関する注意事項

⚠危険



- 運搬時はエンジンを停止させ、燃料コックを閉じてください。
- エンジン及び本機が十分に冷えてから運搬してください。
- 運搬時は必ず燃料を抜いてください。
- 運搬時に本機が動いたり倒れたりしないようしっかりと固定してください。
- 雨天の運搬は、本機に雨水がかからぬようカバーをかけてください。



4.8 保管に関する注意事項

⚠警告

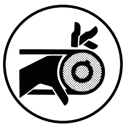
- エンジン及び本機が十分に冷えてから保管してください。
- 各部のゴミ、泥、汚れをきれいに洗浄し、十分に乾燥させてください。
- 平坦な場所に置き、本機が動いたり倒れたりしないようしっかりと固定してください。
- 屋外に保管しないでください。
- やむを得ず屋外に保管する場合、本機に雨や水、ゴミ、ほこりがかからないようにカバーをかけて、直射日光の当たらない湿気の少ない場所に保管してください。
- 長期保管する時
  - ○ 燃料タンク、燃料パイプ、キャブレターの燃料はきれいに抜き取ってください。
  - ○ エンジンオイルの補充・交換を行ってください。
  - ○ スパークプラグを外してエンジンオイルを数滴シリンダー内に流し込み、数回手回して（始動の部を引いて）、内部に十分行き渡らせてください。
  - ○ エアクリーナーの吸入口ならびにマフラーの排気口をしっかりと覆ってください。

4.9 整備に関する注意事項

⚠注意

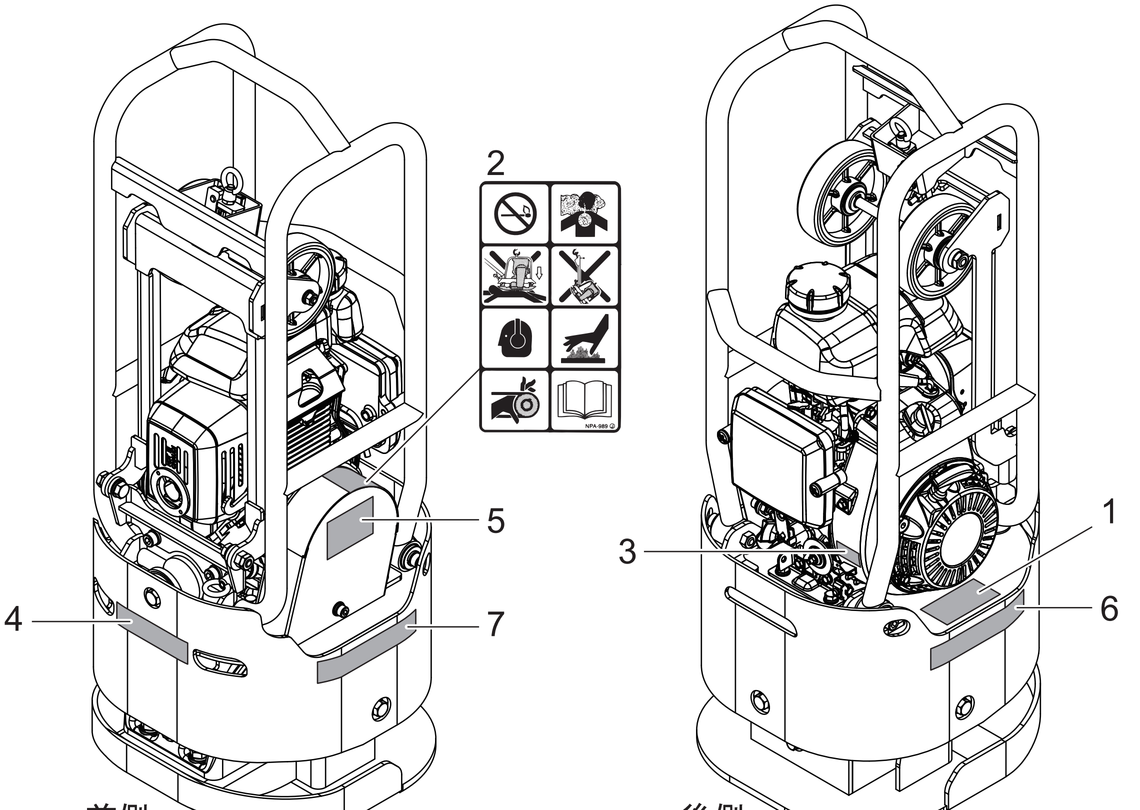
- 安全を確保し、本機の性能を維持するために、適切な整備が必要です。本機の状態を十分に留意し、良好な状態を維持してください。特に、エンジンや起振体の不適切な整備は、故障の発生や思わぬ事故の原因となります。
- 整備は、平坦な場所で本機を水平にし、エンジンが停止した状態で、エンジン及び本機が十分に冷えてから、作業を行ってください。特にマフラーは高温になり火傷をするおそれがあります。また、エンジンやエンジンオイル、起振体等も熱くなりますので、火傷をしないよう十分注意してください。

- 試運転による整備は、回転部（ベルトカバー内等）に手や服などが巻き込まれないように十分注意してください。
- 整備終了後、保安部品の取付及び安全性の確認を行ってください。特にネジの点検は十分行ってください。



- 分解を伴う整備を行う場合は、必ず整備解説書を参照し、安全に作業を行ってください。

4.10 ラベルリスト・取付位置



前側　　　　　　　　後側

No.	部品番号	部品名称	数量	備考
1	9201-15100	銘板／製番／ＭＶＣ－ＰＲ６０／国内	1	非売品
2	9202-09890	銘板／取扱注意／絵文字／ＭＶＨ－Ｒ６０	1	
3	9202-12830	銘板／回転数指示／ＭＴ－４５．５５	1	
4	9201-14000	銘板／ＭＩＫＡＳＡ／黒＿１２５	1	
5	9201-13140	銘板／三笠マーク＿黒＿４０ｘ８０	1	
6	9202-26520	銘板／型式ロゴ／ＭＶＣ－ＰＲ６０（Ｒ）	1	
7	9202-26530	銘板／型式ロゴ／ＭＶＣ－ＰＲ６０（Ｌ）	1	

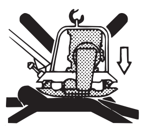
4.11 絵表示（シンボルマーク）ラベルの説明

火気厳禁

運転中、保管中、給油中は火気に注意してください。

排気ガス吸引注意

排気ガスによる中毒の恐れがあるので換気の悪い場所で運転しないでください。



吊り荷の下立入禁止

吊り上げた機械の下へは絶対に人や動物を入れないでください。

吊り上げ禁止

一点吊りフック以外で吊り上げしないでください。

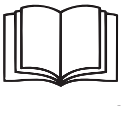
運転中は、防音用保護具を着用してください。

高温部火傷注意

火傷の恐れあり。点検修理は冷えてから行ってください。

回転部巻き込まれ注意

負傷の恐れあり。回転部に手や物を近づけないでください、。



取扱説明書熟読

本機を操作する前に取扱説明書を読み、十分に理解してください。

5. 仕様

5.1 本体

型式		MVC-PR60
機械質量　（※1）		65 kg
機体寸法	全長	365 mm
	全幅	355 mm
	全高	965 mm
転圧盤寸法	全長	365 mm
	全幅	355 mm
振動数		118 Hz（7100 v.p.m）
遠心力		7.9 kN（803 kgf）
最大速度		10 m/min
最大作業勾配		35 %（20度）
起振体オイル	グレード	API分類CD級以上 SAE10W-30
	量	140 cc
Vベルト		RPF3290
標準装備品		回動式移動車

※1 機械質量とは燃料を公表タンク容量の1/2容量、作動油と機体の潤滑油は規定レベル、エンジンオイルは上限レベル、水タンクは空の状態での質量を示します。

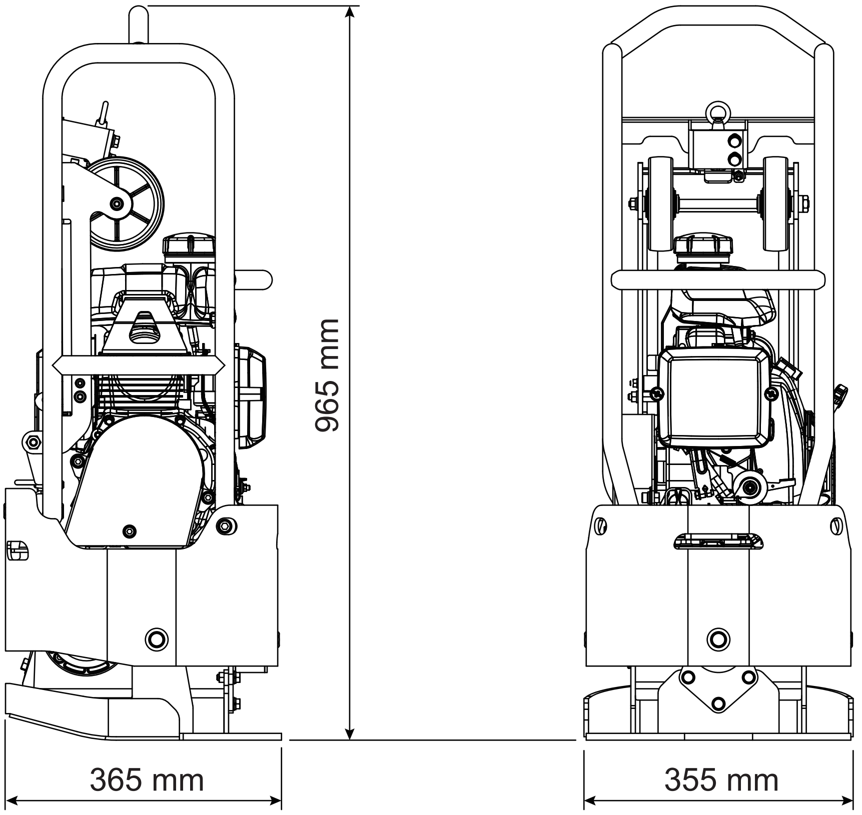
5.2 エンジン

メーカー		ホンダ
型式		GX100
形式		空冷4サイクルガソリンエンジン
排気量		98.5 cc
最高出力		2.1 kW（2.9 PS）/ 3600 rpm
エンジンセット回転数		4100 rpm
使用燃料		無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量		770 cc
エンジンオイル	グレード	API分類SE級以上 SAE10W-30
	量	400 cc
スパークプラグ		CR5HSB
始動方式		リコイルスターター

※ 本仕様は予告無く変更することがあります。

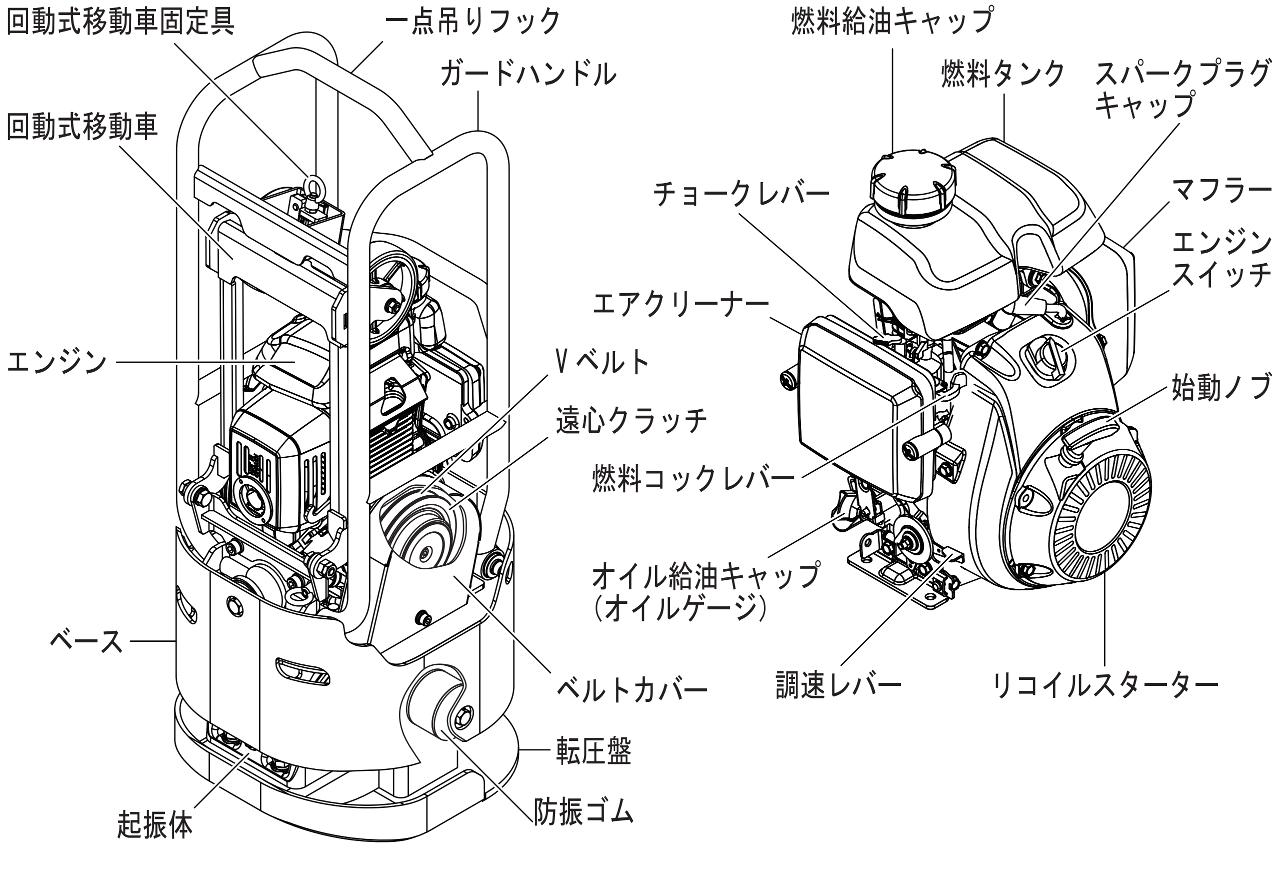
6. 外観図

6.1 外観寸法図



※ 本仕様は予告無く変更することがあります。

6.2 各部の名称



7. 運転前点検

⚠警告

- 点検は平坦な場所で本機を水平にし、エンジンを停止させ、エンジンと本機が十分に冷えてから行ってください。
- 試運転による点検は回転部（ベルトカバー内等）に手や服などが巻き込まれないように十分注意してください。

運転前各部点検表

点検箇所	点検項目	点検箇所	点検項目
外観	傷、ゆがみ、汚れ	ネジ	ゆるみ、脱落
ガードハンドル	傷、変形、亀裂、破損、作動	転圧盤	摩耗、変形、破損
防振ゴム	傷、変形、亀裂、破損	回動式移動車	傷、変形、亀裂、破損、作動
Vベルト	摩耗、変形、亀裂、張り	起振体オイル	漏れ、油量、汚れ
燃料タンク関係	漏れ、量、汚れ、亀裂、変形	エアクリーナー	汚れ、つまり
エンジンオイル	漏れ、油量、汚れ	警告ラベル	汚れ、はがれ
※ エンジン各部の点検は、別冊のエンジン取扱説明書を参照してください。			

7.1 点検

1. 各部を綺麗に掃除し、泥・埃の無いように手入れをしてください。
   特に転圧盤に付着した泥は綺麗にしてください。

2. 各部のネジが緩んでいないか点検してください。ネジが緩んでいると事故や故障の原因となります。ネジをしっかりと締め付けてください。

3. 本機に損傷がないか点検してください。損傷している場合は、修理してください。

4. エアクリーナーが汚れていないか点検してください。汚れている場合は清掃してください。汚れているとエンジン性能が低下します。

5. 警告ラベルがはがれていたり、汚れている場合は、新しい警告ラベルに貼り換えてください。

7.2 エンジンオイル

1. エンジンを水平にし、オイル給油キャップ（オイルゲージ）を外し、注油口の口元までオイルがあるか点検してください。不足している場合は補給してください。(図1)

- エンジンオイル：API分類SE級以上SAE10W−30
- オイル容量：400 cc

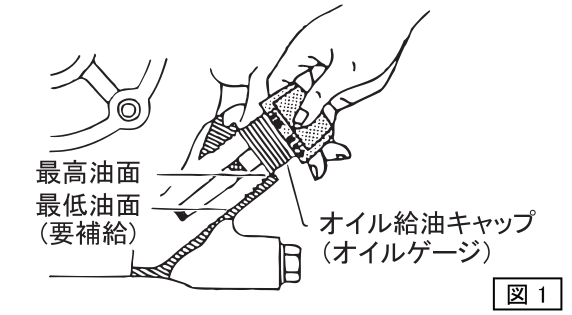


図 1

7.3 起振体オイル

1. 本機を水平にし、起振体のドレンプラグを外し、ドレンプラグ口の口元までオイルがあるか点検してください。(図2)

- 起振体オイル：API分類CD級以上SAE10W−30
- オイル容量：140 cc

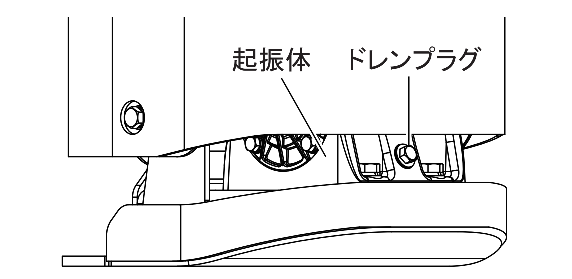


図 2

7.4 Vベルト

1. Vベルトに摩耗やクラック等の損傷がないか点検してください。

2. Vベルトの張り具合を点検してください。張り具合は両軸の中間点を指で強く押して、10～15 mmくらいたわむように張ってあれば正常です。Vベルトの張りが緩いとベルトがスリップし、転圧力が低下します。また、発熱によりベルトの寿命が低下します。(図3)

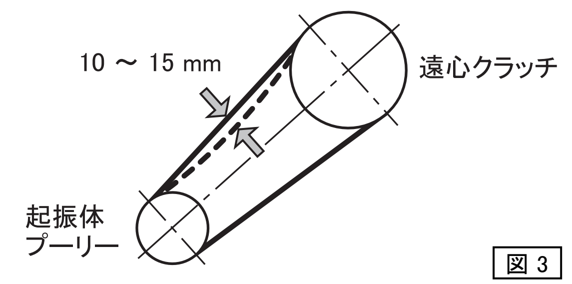


図 3

3. Vベルトの張りが緩んでいる場合は新品のVベルトに交換してください。

7.5 回動式移動車

1. 回動式移動車固定具が、正しく作動するか点検してください。(図4)

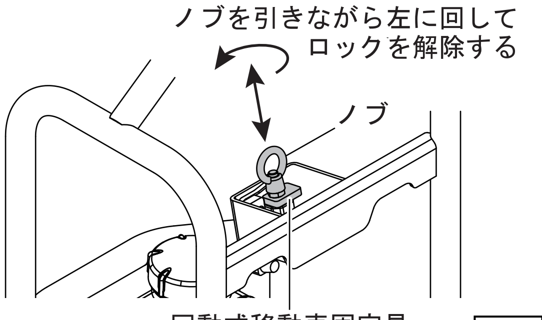


図 4

2. 回動式移動車が、収納位置から運転位置に正しく作動するか点検してください。(図5)

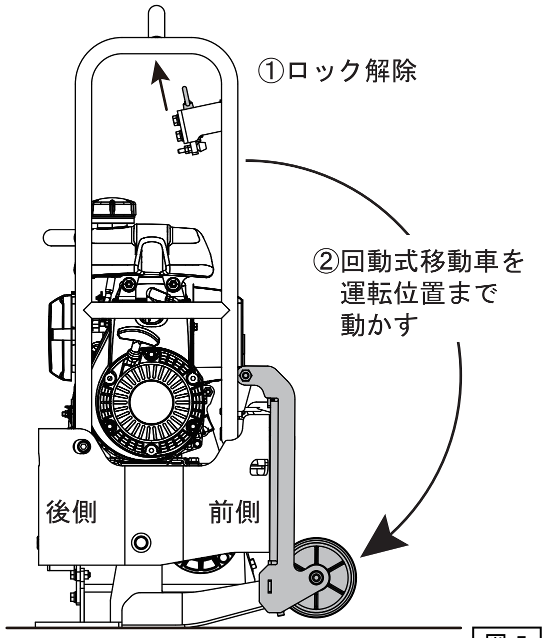


図 5

3. 回動式移動車が、運転位置で確実にロックされていることを点検してください。(図6)

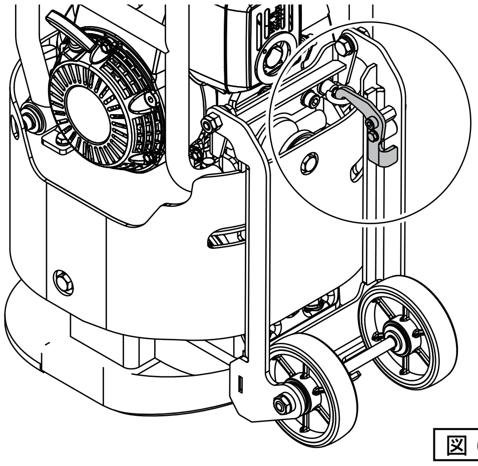


図 6

4. 本機の前側に立ち、足で回動式移動車を押さえて、ガードハンドルを引いて本機を前側に傾けます。ガードハンドルを押し引きして、本機を前後に動かした時、車輪がスムーズに回転するか点検してください。(図7)

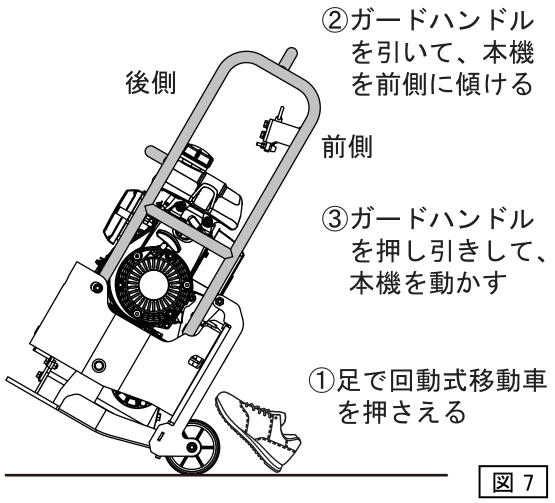


図 7

7.6 燃料

1. エンジンを水平にし、ガソリンの量を確認してください。少ない場合は、給油位置限界を超えないように給油してください。(図8)

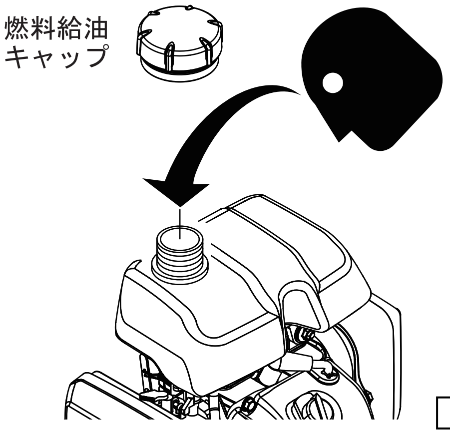


図 8

2. 給油の時、ストレーナーを使用してください。

8. 運転

8.1 START(始動)

1. エンジンスイッチを“ON(I)”の位置にします。(図9)

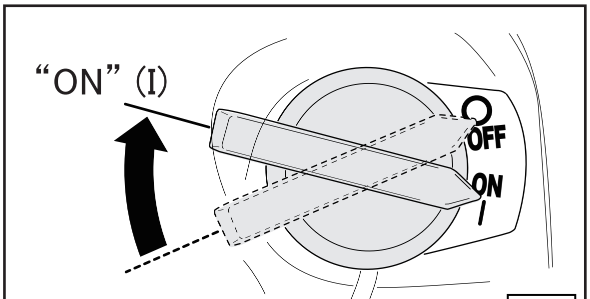


図 9

2. 燃料コックレバーを開きます。(図10)

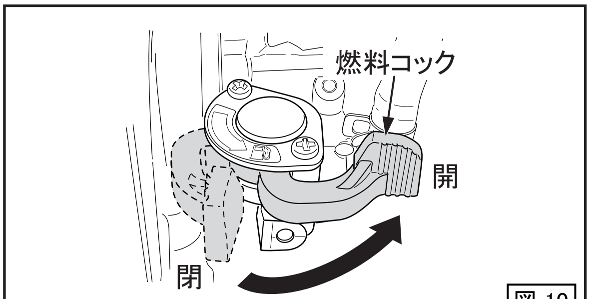


図 10

3. 寒い時やエンジンがかかり難い時にはチョークレバーを閉(始動)じます。(図11)

※エンジンが暖まっている時は操作不要です。

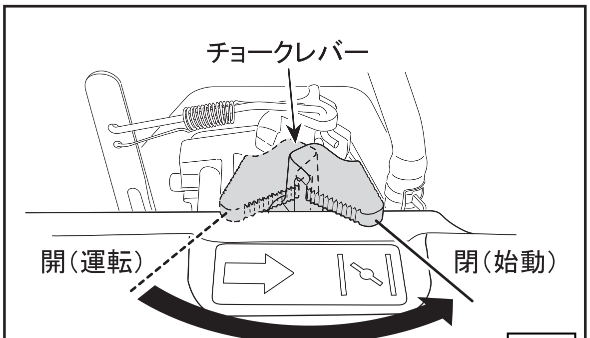


図 11

4. 調速レバーをアイドリング(低速)位置にします。(図12)

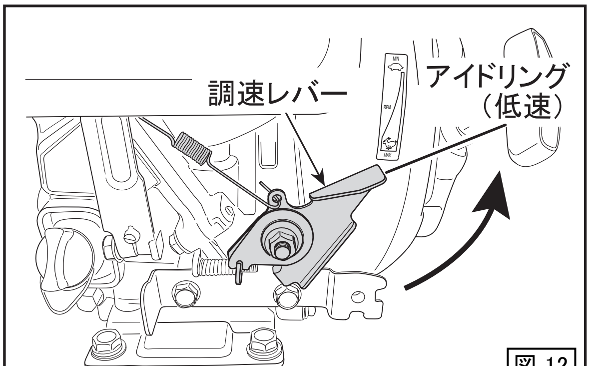


図 12

5. リコイルスターターの始動ノブを握り、少し引くと重くなるところ(圧縮点)があります。そこから勢い良く引張ってください。(図13)

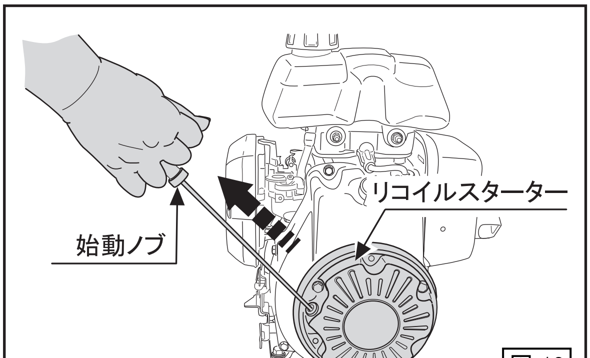


図 13

⚠ 注意

- ロープを強く引張りすぎるとロープが切れたり抜けてしまう恐れがあります。
- 始動ノブは引いた状態で手を放さず、手で持ったままゆっくりと戻してください。

6. チョークレバーを閉(始動)じた時はエンジンの回転が安定することを確認しながら徐々に開(運転)いてください。(図14)

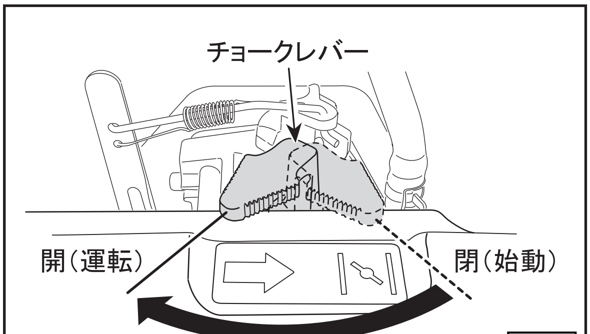


図 14

7. 始動後は、必ず2～3分アイドリング(低速)位置で暖機運転を行います。特に寒冷時には必ず行ってください。

⚠ 注意

- 調速レバーを半開で暖機運転すると、遠心クラッチはスリップした状態となり、遠心クラッチの故障の原因となります。
- 遠心クラッチのスリップは、本機を異常振動させ、本機に悪影響をあたえます。

8.2 運転

1. 調速レバーを運転（高速）位置にすると本機は振動と前進を始めます。調速レバーをゆっくり操作するとクラッチはスリップした状態になりますので、調速レバーはすばやく操作してください。(図15)

2.

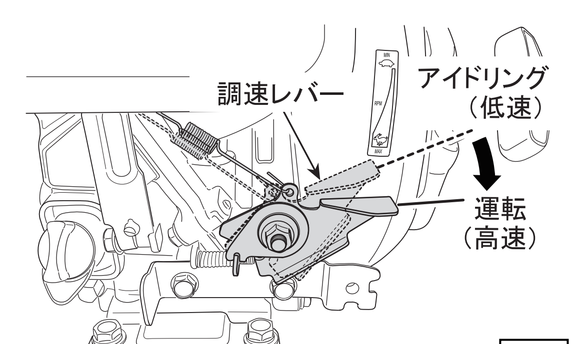


図 15

⚠ 注意

- 本機は、機体後方に立ち両手でハンドルを持って運転してください。
- 本機は、土砂、土、砂利、アスファルトの締固めに使用してください。他の用途に使用しないでください。
- 本機は、運転出来ないほど固い路盤、杭の打ち込み作業、岩盤の締固めに使用しないでください。
- 法面など傾斜のある路盤で本機を使用しないでください。機体が不安定になり、事故の原因となります。また、不均等な負荷から、機体の摩耗が早まる可能性があります。

2. 運転を止める時は、調速レバーをアイドリング（低速）位置へすばやく戻してください。(図16)

2.

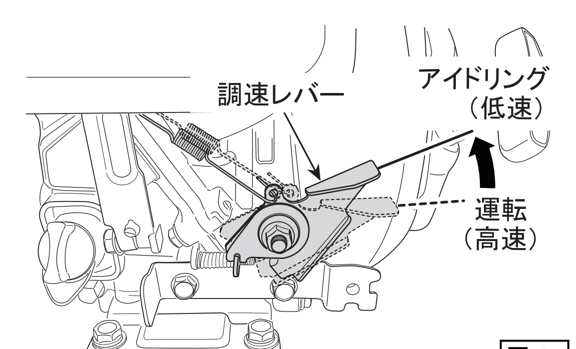


図 16

8.2 STOP（停止）

1. 調速レバーをアイドリング（低速）位置にして、1～3分間運転し、エンジン温度を下げてから、エンジンスイッチを"OFF(○)"の位置にします。(図17)

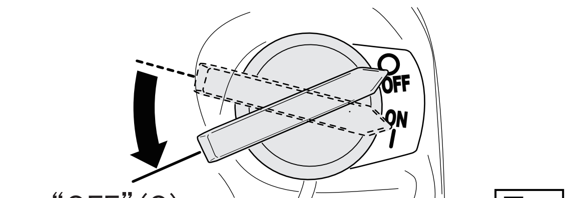


図 17

2. 燃料コックのレバーを閉じます。(図18)

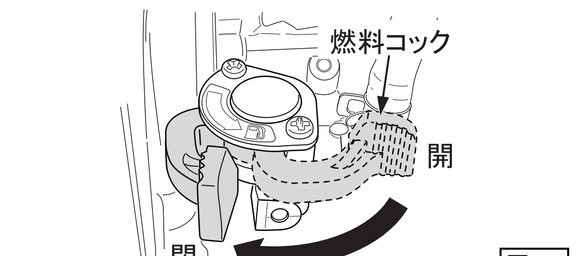


図 18

9. 運搬

- 『4.6 積み下ろし作業に関する注意事項』を参照してください。
- 『4.7 運搬に関する注意事項』を参照してください。

10. 手入れ

- 『4.9 整備に関する注意事項』を参照してください。

11. 保管

- 『4.8 保管に関する注意事項』を参照してください。

12. 定期点検

⚠警告

● 本取扱説明書に記載されているすべての安全のための注意事項を読みその指示に従ってください。

12.1 各部点検スケジュール表

点検時期	点検箇所	点検項目	油脂類
毎日（作業前）	外観（各部点検）	亀裂、変形、摩耗、破損、汚れ	
	ネジ	ゆるみ・脱落	
	燃料タンク関係	漏れ、量、汚れ、亀裂、変形	ガソリン
『7.運転前点検』	エアクリーナー	汚れ、つまり	
を参照のこと。	エンジンオイル	漏れ、油量、汚れ	エンジンオイル
	起振体オイル	漏れ、油量、汚れ	エンジンオイル
	V ベルト	摩耗、変形、亀裂、張り	
20 時間	エンジンオイル	初回のみ20時間で交換	エンジンオイル
100 時間毎	エンジンオイル	交換	エンジンオイル
200 時間毎	起振体オイル	交換	エンジンオイル
	V ベルト	摩耗、変形、亀裂、張り	
	遠心クラッチ	摩耗、傷、汚れ	
2 年毎	燃料パイプ類	交換	
不定期	エアクリーナー	交換	

※ 上記は一般的な使用状態における推奨点検時間です。使用状態により内容が異なりますのでご注意ください。

※ エンジン各部の点検は、別冊のエンジン取扱説明書を参照してください。

12.2 点検作業内容

● 毎日の手入れ

○『7. 運転前点検』を参照してください。

● 100時間毎の手入れ

○ エンジンオイルは初回のみ20時間で交換し、2回目以降は100時間毎に交換してください。

● 200時間毎の手入れ

○ 起振体オイルをドレンプラグから抜き取り、新しいオイルと交換してください。

○ Vベルトの摩耗やクラック等の損傷と張り具合を点検してください。

○ 遠心クラッチの点検は、Vベルトの点検と同時に行ってください。クラッチドラムの焼き付き、クラッチシューやV溝の摩耗・損傷を目視で点検します。V溝が汚れている場合は清掃してください。

⚠注意

● エンジン高速運転中、振動が弱かったり、振動しない場合は、Vベルトもしくは遠心クラッチがスリップしています。Vベルトと遠心クラッチの点検・交換を行ってください。

● 2年毎の手入れ

○ 燃料パイプは、2年で交換してください。また、点検時劣化などで漏れや破損のあるものは2年を待たずに交換してください。

● 部品やパーツリストおよび修理に関しては販売店もしくは三笠部品サービスセンターに御問い合わせください。

13. トラブルシューティング

13.1　エンジン

13-1-1 始動不良

- 燃料があり、スパークプラグは発火しない
  - 高圧コードまで電気が来ている
    - スパークプラグにカーボン付着
    - スパークプラグにオイル付着
    - スパークプラグの絶縁不良による短絡
    - スパークプラグの電極破損
  - 高圧コードに電気が来ない
    - ストップスイッチの短絡
    - イグニッションコイルの不良
- 燃料があり、スパークプラグは発火する
  - 圧縮が良い場合
    - エアクリーナエレメントの詰まり
    - 気化器の詰まり・不良
    - マフラーのカーボンによる閉塞
    - 不良燃料の使用
    - 燃料に水又はゴミの混入
  - 圧縮が悪い場合
    - シリンダーガスケットの不良又は締付不良
    - ピストンリングの膠着
    - シリンダーの磨耗
    - スパークプラグの締付不良
- 気化器に燃料が来ない
  - 燃料タンク内に燃料が無い
  - 燃料コックの開き不良
  - 燃料フィルターの詰まり
  - タンクキャップの空気穴塞がり
  - 燃料パイプ中に空気が溜まる

13-1-2 運転不調

- 力が弱い
  - 圧縮が良く失火も無い
    - エアクリーナエレメントの汚れ
    - 燃料パイプに空気が入っている
    - 気化器フロートチャンバーの油面の狂い
    - シリンダー内カーボンの堆積
  - 圧縮不足（圧縮が悪い場合を参照）
  - 圧縮が良く失火がある
    - イグニッションコイルの不良
    - スパークプラグが汚れている
    - イグニッションコイルが時折短絡する
- エンジンの過熱
  - 燃焼室内にカーボン堆積過多
  - マフラーのカーボンによる閉塞
  - スパークプラグの熱価不良
- 回転変動
  - ガバナの調整不良
  - ガバナスプリング不良
  - 燃料の流れが悪い
  - 吸入管系統からの空気吸い込み

13-1-3 リコイルスターターの動きが悪い

- 回転部のゴミ詰まり
- リコイルロープのへたり
- リコイルスプリングのへたり

13.2　本体

- エンジンは運転するが、振動が不定、又は、振動しない
  - 起振体のベアリングロック
  - 起振体オイル量の過多
  - クラッチのすべり
  - V ベルトのすべり・外れ
  - エンジンセット回転数の不良
  - 輾圧盤の磨耗
  - 防振ゴムの磨耗・破損

MIKASA SANGYO CO., LTD.
1-4-3,Kanda-Sarugakucho,Chiyoda-ku,Tokyo,101-0064,Japan

三笠産業株式会社
〒101-0064　東京都千代田区神田猿楽町1-4-3

修理に関するお問合せ
TEL 048-734-2402　　FAX 048-734-7678

部品に関するお問合せ
TEL 048-734-2401　　FAX 048-736-6787

その他のお問合せ
info@mikasas.com

Web パーツリスト
https://www.mikasas.info/MIKASA/JA/

©2025 三笠産業株式会社